

会員各位

岐阜県病院薬剤師会
会長 伊藤 善規

第 255 回岐阜県病院薬剤師会研修会開催のご案内

拝啓

時下、先生におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。
さて、下記のとおり研修会を開催しますので、奮ってご参加頂きますようご案内致します。

敬具

記

日時：平成 22 年 11 月 20 日（土）午後 3 時 00 分より

場所：長良川国際会議場 4 階 大会議室

岐阜市長良福光 2695 - 2 Tel (058) 296 - 1200

【内容】 総合司会 岐阜県総合医療センター 薬剤部 関谷 猛

1、 会長挨拶

2、 会員報告

1. 病院紹介 022「岐阜県総合医療センター」

岐阜県総合医療センター 薬剤部 平下 智之 先生

2. 教育委員会報告 ー平成 22 年度新任・中堅薬剤師研修会を終えてー

岐阜県病院薬剤師会教育委員長(大垣市民病院 薬剤部) 元山 茂 先生

3. 治験薬管理におけるリスクマネジメントへの取り組み

岐阜市民病院 薬剤部兼治験管理センター 水井 貴詞 先生

参加費：薬剤師会会員 500 円 非会員 2000 円

* 当研修会は岐阜県病院薬剤師会研修制度及び日本薬剤師研修センター研修制度に該当する研修会です。

主催 岐阜県病院薬剤師会

地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター 病院紹介

薬剤部 平下 智之

岐阜県総合医療センターは、平成18年11月に新病院が完成し岐阜県立岐阜病院から名称変更しました。Humanity（人間性を大切にしたい）に基づいた医療、EBM（Evidence-based medicine：科学的根拠に基づいた医療）の実践、効率的な病院運営の理念のもとに県民に信頼され、患者の立場に立ったより良い医療の提供と良質な病院経営を目指しています。当院の特徴は、救命救急センター、母とこども医療センター（周産期）、がん医療センター、女性医療センター、心臓血管センター、小児医療センター、新生児医療センターを柱に「救命救急医療」「心臓血管疾患医療」「こども医療」「がん医療」「女性医療」「周産期医療」を重点医療として、高度で先進的な医療を提供できる体制です。また、すべてのベッドに窓を配置し、プライバシーやゆとりに配慮した個室の多床室、患者様とのふれあいを大切にしたい一病棟40床のゆとりのある病棟設計など、ゆとりとふれあいを大切にしたい患者様中心の施設環境です。

【施設概要】※平成21年度実績

施設名：地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター

所在地：岐阜市野一色4-6-1 理事長・病院長：渡辺佐知郎

病床数：590床（一般520床、救命救急センター30床、新生児部門40床）

職員数：840人（医師は研修医を含めて約160人、看護師は約480人）

診療科：41

【薬剤部】

薬剤師数：26人（うち1名：治験管理センター兼務）薬剤助手：2人

業務内容

①外来処方箋枚数：院外処方 9,753.0枚/月(院外処方箋発行率 89.4%)

②入院処方箋枚数：6,990.0枚/月、③薬剤管理指導件数：284.5件/月

④抗がん剤調製件数：外来444.3件/月、入院311.5件/月

電子カルテシステムの導入に合わせて、電子カルテシステムと連動して薬剤業務が行える機器を導入し業務を行っています。

調剤室…トーショー社調剤支援システム(自動錠剤分包機2台、薬袋印字システム、散薬監査システム、自動散薬分包機)

注射室…トーショー社全自動注射薬払出システム(UNIPUL4000)

在庫管理…トーショー社リテラシステム

薬剤部の業務は、調剤担当、薬品管理担当、薬品情報担当に分かれて行っており、調剤担当は調剤業務や院内製剤業務など、薬品管理担当は薬品管理業務、注射薬調剤業務やTPNと抗がん剤の無菌調製など、薬品情報担当は薬剤管理指導業務、医薬品情報業務や実習生の教育・研修などを主に行っています。また、チーム医療としては、糖尿病療養指導チーム、ICT (Infection Control Team：感染制御チーム)、NST (Nutrition Support Team：栄養サポートチーム)、緩和ケアチームなどで活動しています。

今年、当院は地方独立行政法人化され再スタートしました。4月から救命救急センターに薬剤師が1名常駐する、また、9月から院内のすべての抗がん剤のミキシングを実施するなど業務範囲の拡大と質の強化に努めています。

(参考：週刊 薬事新報 No.2655(2010) 平成22年11月10日号 P25~30)

教育委員会報告

－平成 22 年度新任・中堅薬剤師研修会を終えて－

教育委員会委員長 元山 茂

平成 22 年度の新任・中堅薬剤師研修会を 9 月 4 日(土)、5 日(日)に岐阜市の長良川スポーツプラザにて 1 泊 2 日で行いました。今年度から、岐阜県薬剤師会と岐阜県病院薬剤師会の合同で行うこととなり、合計 40 名(開局:8 名、病院:32 名)の新任・中堅薬剤師の方が参加されました。第一線で活躍されている講師の方の貴重な講義を聞き、また夜は開局と病院の分け隔てない交流を楽しみましたので、その内容を簡単に紹介させていただきます。

この研修会は宿泊で行うことに大きな意義があります。講義による知識や考え方を勉強することは言うまでもありませんが、普段考えていることを話し合うことで、お互いの立場を理解し、今後の診療連携(医療薬薬連携)につなげて行きたいと考えています。

研修会は①講義、②自由討論、③テーマ討論、④発表(今後の展望)から構成され、それぞれ以下のような目的があります。

◎講義:知識や考え方を習得する。

◎自由討論:他施設の方や講師とコミュニケーションをとり顔の見える関係を築く。

◎テーマ討論:今までの自己を見つめなおし、これからの目標を立てる。

◎発表(今後の展望):研修最後に今後の決意表明を行う。

研修会を終えて受講生にアンケートと感想文を依頼したところ、「有意義な研修会だった」、「薬剤師として考え方が変わった」、「他施設の薬剤師と知り合いになれて良かった」という感想を多数いただきました。特に自由討論は好評で、自作の名刺を交換しながらの交流は現在抱えている悩みや将来の薬剤師像を語り合う格好の場となったようです。研修会を企画した教育委員会の委員も自分自身のモチベーションが上がり、また新任・中堅薬剤師のために役に立てたという満足感を得ることができました。

最後に、研修会に参加していただきました受講生、講師のみなさんありがとうございました。

治験薬管理におけるリスクマネジメントへの取り組み

岐阜市民病院 薬剤部・治験管理センター 水井貴詞

【目的】 治験実施において、GCP では治験薬管理は薬剤師が行うことが定義されている。また、最近では治験薬の投与方法、管理が複雑になってきており、単なる保管管理だけでなく、投与から回収にまで十分な注意を払う必要がある。また、治験薬は使用法が複雑であり、被験者が正しく使用できない可能性や看護師が投与時に複雑であることと日常業務と違うため、戸惑うことでミスを生ずる可能性がある。そのために、既に他施設で講じた対策を入手する場合もあるが、その内容を依頼者からあらかじめ提示されることはなく、問い合わせをして初めて提示されるケースがほとんどである。そこで今回、特殊な治験薬管理の事例に対して、当院独自の対策方法を講じ、その有用性を調査したので報告する。

【方法】 治験薬を被験者が正しく使用でき、看護師が投与時にミスを起こさないため、管理・払出し・投与それぞれに有効である対策を講じた。また、看護師が投与する注射薬では治験薬の写真・投与方法などを明記したカードを看護師と相談して作成し、払出し時に添付した。その結果、看護師の戸惑いから発生する負担を軽減でき、誤投与や誤廃棄を防止し、治験薬を適正に管理することが可能となった。また、今回の対策について看護師にアンケートを実施した。

【結果・考察】 看護師にアンケートを実施した結果、「回答から治験薬を投与する場合に、余計な気を遣わず安心できる」との回答もあり、看護師と協力して作成したカードはミス防止に有効であると考えられた。今後も看護師が安心して実施できる対策を講じていく必要があると改めて認識した。また、各医療機関での独自の対策に加え、依頼者が他施設で実施している対策例を提示し情報提供することで、医療機関側も横の連携を図り、逸脱防止対策の共有ができ、日本全国における治験業務のレベルアップと効率化が図れ、結果的に国際競争力を蓄えることになり、国際共同治験での評価も得られると考える。

学術講演会のご案内

謹啓

時下、先生におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、このたび下記のとおり学術講演会を開催させていただき運びとなりました。
ご多忙中誠に恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようご案内申し上げます。

謹白

記

日時：平成 22 年 11 月 20 日（土）午後 4 時 30 分より

場所：長良川国際会議場 4 階 大会議室

岐阜市長良福光 2695-2 TEL (058) 296—1200

■製品紹介

『抗がん薬の情報提供について - 日本化薬コールセンターの現状報告 - 』

日本化薬株式会社

■特別講演

座長 国民健康保険関ヶ原病院 薬剤長 細江 智之 先生

『がん患者に対する薬剤管理指導業務』

九州大学病院 薬剤部 注射剤係長

池末 裕明 先生

共催 岐阜県病院薬剤師会
日本化薬株式会社

※ 講演会終了後、グループディスカッションを計画しております。

がん患者に対する薬剤管理指導業務

九州大学病院薬剤部 池末裕明

がんによる死亡は、わが国における死因の第一位であり、がん化学療法は外科的治療、放射線治療等とともにがん治療において重要な位置を占める。がん化学療法を受ける患者の多くは、言葉に出来ない程の戸惑いと不安を抱えつつも、がんに立ち向かうべく治療を受けている。その様な患者と家族に対して、薬剤師が他の医療従事者との連携のもと、どの様に関わり貢献できるか、日々模索しながら業務に取り組んでいる。近年、がん治療における薬剤業務は急速に進展したが、それでも課題は多い。九州大学病院（以下、当院）では、月平均 1,800 名の患者に薬剤管理指導業務を実施しており、病棟専任薬剤師 1 名あたり約 90 床を担当せざるをえず、また、必ずしも経験豊富な薬剤師ばかりではない。がん患者は多くの診療科に分散して入院しており、そのため担当する薬剤師の知識と経験も様々である。

この様な状況では、薬剤師の人員不足を補うとともに質の向上を支援する、何らかの「仕組み」が必要だと考えられる。当院では、薬品情報室と連携して知識の共有化に力を注いでいる。さらに、質の高い効率的な薬剤管理指導業務を目指して「処方チェック・副作用モニタリングシート」、「副作用対策シート」および「服薬指導シート」を作成し、岐阜大学医学部附属病院薬剤部と共同で改訂し、業務に活用している。最近では、院内における「服薬指導シート」の評価が高く、これを活用した薬剤管理指導業務とその背景を紹介したい。

また、日々の業務を展開するなかで、エビデンス不足のため判断を要することがしばしばある。自らが実施した業務を再評価し向上させるため、エビデンスを発信するとともに、薬剤師の存在価値をアピールすることも重要になってくる。例えば、制吐療法や血管外漏出に関するガイドラインが刊行され、各施設における副作用対策は向上したと思われるが、現場レベルではまだ解決すべき課題が残っている。これらへの対応を中心に、当院での取り組みを紹介する。

以上、がん化学療法をより効果的かつ安全に行うために、薬剤師に求められる役割はさらに重要になっている。「これしかない」という解は無いと思われるが、がん患者に対する薬剤管理指導業務をいかに行き、どう貢献していくかを考えたい。

略 歴

2010年9月29日

いけすえ ひろあき
池 末 裕 明

1975年2月2日生（9月29日現在 35歳）

九州大学病院 薬剤部

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

学歴

平成10年3月 九州大学 薬学部卒業

平成11年3月 九州大学大学院 薬学研究府 中退

平成20年8月 九州大学大学院薬学府 博士（薬学）

職歴

平成11年4月 九州大学病院 文部技官（薬剤師）

平成16年4月 薬剤部係長

平成20年10月（～平成21年2月）

医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究推進事業にて
米国ウィスコンシン大学病院において研修

現在、薬剤管理指導業務を担当

所属学会等

日本薬学会，日本医療薬学会（指導薬剤師，がん指導薬剤師），日本臨床腫瘍学会，日本癌治療学会，
日本緩和医療薬学会，American Society of Health-System Pharmacists ，
日本病院薬剤師会（がん専門薬剤師）

受賞

平成16年 日本病院薬剤師会 学術奨励賞

「癌化学療法における薬剤管理指導業務 ー副作用の発現予測による質的向上並びに効率化ー」

平成17年 日本医療薬学会 奨励賞

「がん化学療法ワークシートの開発に関する研究」

著書

「がん化学療法ワークシート 第3版」，じほう，2008.（執筆・編集）

「がん化学療法セーフティーマニュアル」，じほう，2007.（分担執筆） など